

# Creation & Innovation

## 第56期 事業報告書

平成15年4月1日から平成16年3月31日まで



## トップメッセージ

株主の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

今期は不本意ではございますが、減収減益となりました。株主様のご期待に沿えず、誠に申し訳ございません。この原因を徹底的に追及・分析し、対策を講じて次期に向けて取り組んでまいります。既に新商品の開発など引き続き進めておりますが、核となります食品総合ラボラトリーは平成15年3月に竣工し、その後人員の増強をおこないましたので新商品開発に十分に力を発揮することになっております。また、昨年5月、早稲田大学との産学連携事業であります株式会社T.M.Lを設立いたしました。食べやすい“さかな”を中心とした新商品を具体化する予定であります。コーレトガバナンスでは、経営諮問委員会を新設して役員指名や報酬について取締役会に諮問するようにいたしました。取締役と業務執行との役割区分を明確にいたし、取締役の任期を1年といたしました。社外取締役も1名増員し、経営の責任および透明性をより高めております。このように経営体制を整えながら全社一丸となって目標を達成すべく、進めてまいりたいと存じます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成16年6月吉日

代表取締役社長兼 CEO・COO

石取 小一

### 経営理念

株式会社なりとそのグループは、自由闊達にして公正で節度ある企業活動により、食文化の創造と発展を通して、顧客満足・株主還元・社会貢献の実現を図り、社会的に価値ある企業として、この会社に係わるすべての人が誇りを持てる会社を目指します。

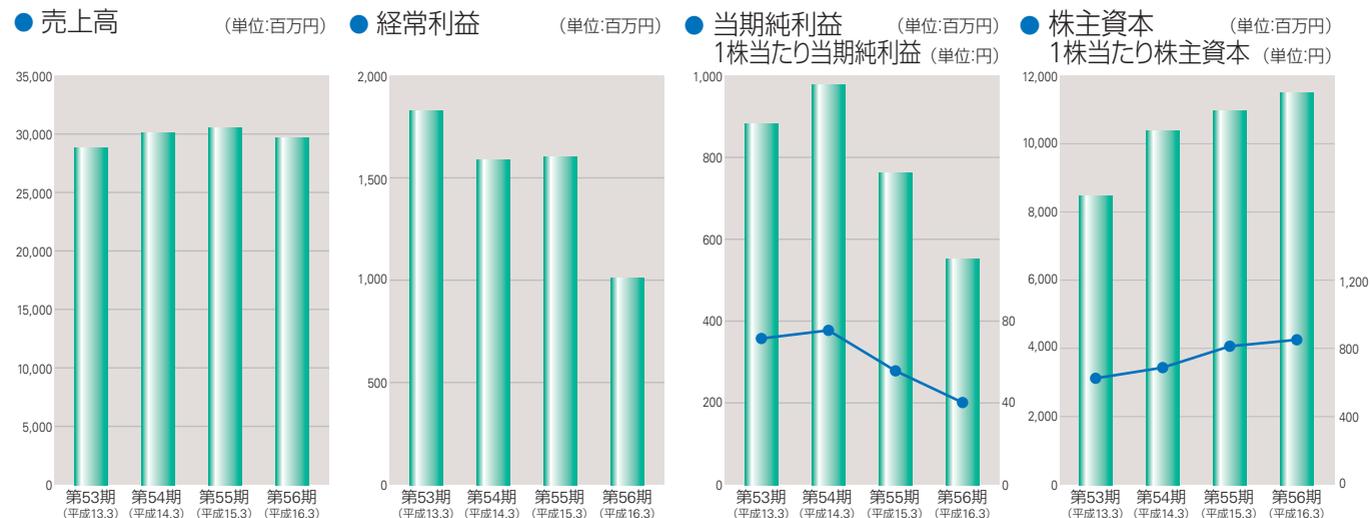
### Contents

トップメッセージ・経営理念.....	1	財務の状況.....	9
財務ハイライト（連結）.....	2	株式の状況.....	12
株主の皆様へ.....	3	会社の概要・企業集団の状況.....	13
クローズアップ・トピックス.....	5	生産・営業・物流拠点.....	14
製品紹介.....	7		

## 財務ハイライト（連結）

	第53期 (平成13年3月期)	第54期 (平成14年3月期)	第55期 (平成15年3月期)	第56期 (平成16年3月期)
連結 売上高 (百万円)	28,898	30,158	30,530	29,733
経常利益 (百万円)	1,832	1,592	1,606	1,013
当期純利益 (百万円)	881	978	763	551
1株当たり当期純利益 (円)	71.45	75.39	55.62	40.18
総資産 (百万円)	24,577	24,165	25,118	24,991
株主資本 (百万円)	8,488	10,391	10,977	11,505
株主資本比率 (%)	34.54	43.00	43.70	46.04
1株当たり株主資本 (円)	688.07	767.65	810.12	847.78

●平成13年9月17日株式を東証二部に上場し、公募増資をおこなっております。  
●第53期の1株当たり当期純利益と1株当たり株主資本は、第54期に二度の株式分割（1:2、1:1.2）を実施しましたので、遡及修正をおこなっております。



## 株主の皆様へ



代表取締役社長兼 CEO・COO

### Q. 第56期はどのような1年でしたか。

A. 当期におけるわが国経済は、輸出と民間設備投資が牽引して景気指標の改善や企業収益の回復など明るい兆しが見えてきました。しかし個人消費は税負担・社会保険料負担の増大といった将来に対する不安もあり、依然として低迷しており、本格的な景気回復までには未だ不透明な状況で推移いたしました。

加工食品業界・小売業界におきましても、当上半期の天候不順や昨年末に米国で発生したBSE問題や鳥インフルエンザ問題等、食品の安全性を巡る諸問題が発生し低調な状態にあります。

なとりグループは平成14年9月に一部商品に無認可の添加物が混入、自主回収と再発防止のための諸施策を実行いたしました。その後遺症もあり第1四半期は大幅な減収減益となり、最後まで第1四半期の遅れを取り戻すことができず、通期でも減収減益の結果で終わりました。

### Q. 当期に発売された新商品について教えてください。

A. 保存料、着色料、化学調味料を一切使用しない健康を重視した「天然宣言」シリーズや、酒類小売業免許自由化へ対応した酒売場向け「Liquor Plus」、また、20年を越えてお客様からご愛顧いただいておりますチーズ鱈をヘルシーなキャノーラ油で揚げた「チータラチップス」「チータラフライBit」のほか、荳わかめ・おつまみ海苔・梅しっとり黒糖味・帆立貝柱・ジャッキーBit・ひとくちいか燻製・カマンベールチーズ入りかまぼこ等を開発、シリーズ商品については、「おいしさプラスα」をコンセプトに、素材と品質にこだわった良品「QVシリーズ」を発売、当社としては15年ぶりのテレビCMを発売に合わせ全国展開いたしました。なお、「天然宣言」一夜干風焼あたりめは昨年11月水産省長官賞を受賞いたしました。その結果、当期売上高に占めるここ1年間に新商品として開発・販売した構成比率は31.1%（改良品を除く）となり、目標の30%以上を達成いたしました。

### Q. 生産・品質管理体制及び販売体制の強化について教えてください。

A. 「生産・品質管理体制の強化」については、食品メーカーとして安心・安全第一に努めておりますが、グループ内工場の組織・人事の大幅な変更を実施しました。また、水産加工品の拠点であります子会社であるメイホク食品株式会社は、平成15年11月品質マネジメントシステムの国際規格でありますISO9001の認証を取得、既に認証を取得している埼玉工場、子会社である株式会社函館なとりの2工場を含め同システムの浸透を図りました。常にお客様に信頼される商品

を提供するために原料仕入から生産現場、店頭に並ぶまでの衛生管理や履歴管理に細心の注意を払っております。

「販売体制の強化」については、この間、めまぐるしく変わるマーケットの動向に迅速に対応でき、マーケット・エンジニアリングを指向する組織を目的とした組織・人事の大幅な変更を実施しました。新規得意先の開拓・インスタシェアアップ・全国各地のリージョナル・チェーン店との取組みを強化いたしております。また、従来の珍味売場の充実に加え、珍味売場以外への販売拡大を課題として、新商品開発によるカテゴリーの拡大を通じて積極的な販売活動に注力しております。

### Q. 今後の見通しについて教えてください。

A. 当社グループは、成長のための「改革」を最重要課題として掲げ、経営品質の向上へ諸施策を具体化してまいります。新築・増員した食品総合ラボラトリーの諸機能を十分に発揮し、自社ブランド商品開発に総力を挙げて取り組んでまいります。珍味売場の枠を越えたチルドおつまみ・素材菓子・豆菓子・スナック・駄菓子などの売場へカテゴリーを拡大し、新商品も開発してまいります。早稲田大学との産学連携事業として株式会社T.M.Lを設立しておりますが、この度、新潟医療福祉大学の参画を得て、産学連携の更なる推進と同社の低温スチーム加工技術を活用した新分野への進出も積極的に進めてまいります。将来的には中高齢者及び介護マーケットを対象に大いに期待できる商材であります。原資材調達本部は増員し、海外生産の推進、調達を積極的に進め、原価構成比の高い原材料コストの圧縮を図ります。生産においても、情報システムの改善により計画生産を推進し、大幅な商品の絞り込みにより生産性を高めてまいります。これらを受けて営業では、当社の当業界でのリーディング・カンパニーとしての商品総合力・情報力を生かして、珍味売場の充実のみならず、対象売場をチルド・素材菓子などにも拡大しシェアアップを図ります。また物流変更により効率的な営業活動をおこない、主力得意先への提案力・販売力の向上に努めてまいります。

他方、関係会社においても、株式会社なとりデリカの洋風惣菜、株式会社好好飲茶の中華惣菜、株式会社全珍の揚げ物商品の増益を計画しております。

業績の見通しは、売上高312億円（前期比4.9%増）、営業利益15億90百万円（前期比53.6%増）、経常利益16億50百万円（前期比62.8%増）、当期純利益9億円（前期比63.2%増）を見込んでおります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年6月

## クローズアップ

### ●研究開発体制の強化●

#### R&Dセンター(食品総合ラボラトリー)による開発型企業を志向

平成15年3月26日、食品総合ラボラトリーが竣工いたしました。当ラボラトリーは、なとりグループの成長戦略の一環として、21世紀の「開発型企業への転換」を目標に、新分野・新商品の開発、品質管理システムの確立、量産技術(試作及びパイロット工場)の開発、マーケットリサーチの強化、食文化研究並びに生活科学研究の充実化、技術情報の集積と開発成果の特許取得等を進める、なとりグループ

のR&Dセンターとして位置付け、今後この新築・増員した食品総合ラボラトリーの諸機能を十分に発揮し、なとりブランドの強化を図ってまいります。



食品総合ラボラトリー

#### (1) 概要

- ① 建物 地下1階、地上2階 建築面積1,520.52㎡、延床面積2,728.86㎡
- ② 主要機器 ガスクロマトグラフ質量分析装置(GC-MS) 高速液体クロマトグラフィー(HPLC) 原子吸光分光光度計(AA)

#### (2) コンセプト

メインコンセプト  
Creation(創造)とInnovation(革新)

- ① Difference : 「差別化」された製品および生産技術の開発
- ② Integration : 食文化の創造・マーケットリサーチ
- ③ Healthy : 健康に配慮した「おつまみ」製品の開発
- ④ HACCP&ISO : HACCPとISOの統合運用による品質管理
- ⑤ Long Range Thinking : 産学連携等長期的な展望・発想による研究開発

#### 新潟医療福祉大学も早稲田大学に続き産学連携に参加

当社と早稲田大学社会システム工学研究所は、急激に高齢化が進むなか、高齢者が安心して簡単に調理できる食材を提供できる「総合食システム」を開発、生産、販売することを目的に、平成15年5月8日に産学連携事業会社株式会社T.M.Lを設立、事業活動を開始、現在、コア技術である低温スチーム加工技術を活用し「骨まで食べられる魚」等を開発いたしております。この度、この基本理念に賛同された新潟医療福祉大学(学校法人新潟総合学園 理事長 池田 弘氏)の参画を得て、株式会社T.M.Lを介して、三者で共同して高齢者福祉介護問題と高齢化に対応した社会システムの構築を検討し、高齢化社会の安心食を開発し、この普及に努め、高齢化社会に向けた総合的な事業展開を図っていくこと、また産学連携の更なる推進と相互の発展に資することを目的に、包括契約を締結いたしました。当社は今後、この株式会社T.M.Lにて開発する製品を中心に、老人介護食や中(なか)食といった新市場の開拓に積極的に取り組んでまいります。

新潟医療福祉大学(学校法人新潟総合学園)

所在地 新潟県新潟市島見町1398番地

創立年月 平成13年4月

学生数 1,302名

新潟医療福祉大学は、医療・福祉・保健の3分野の高度専門職を養成する4年制大学で国家資格の取得を目標としております。

## トピックス

### ●IR活動について●

#### 東京証券取引所

#### 「第9回ディスクロージャー表彰」受賞

当社はこの度、東京証券取引所から「第9回ディスクロージャー表彰」を受賞いたしました。

東京証券取引所の「ディスクロージャー表彰」は、平成7年度に設けられた制度で、上場会社のディスクロージャーの充実を促進する観点から、企業内容等を適時・適切に、投資家に分かりやすい形で開示しているなど、ディスクロージャーに積極的に取り組んでいると認められる上場会社を毎年1回表彰するものです。表彰会社は、学識経験者、公認会計士、証券アナリスト、機関投資家等各方面の専門家によって構成される「上場会社表彰選定委員会」において選定されます。選定に当たっては、情報開示の早期性、情報内容の充実性等の観点から、決算発表に要した日数などの外形的要素、決算短信及び株主向け書類の記載内容等について評価対象とすることとしております。また、表彰会社は、表彰年度後4年間、ディスクロージャー表彰の選定対象会社から除外されます。今回は、2,058社が選考の対象となり、当社を含む7社が受賞いたしました。

表彰式は平成16年1月30日、帝国ホテルで行われ、当社代表取締役社長名取小一が、東京証券取引所吉野貞雄専務から、表彰の盾を授与されました。



東京証券取引所 吉野貞雄専務(左)と当社代表取締役社長 名取小一

### ●コンプライアンス体制の強化●

#### 「第2回 誠実な企業賞 大賞」受賞

この度、株式会社なとりは、「誠実な企業賞」審議委員会より第2回の「誠実な企業賞大賞」会社としてご選定いただきました。

「誠実な企業賞」(Key Firm of Integrity Award)は誠実かつ透明な企業経営を通じて長期的に市場で高い競争力をもたらす、公正な社会に貢献しようとしている企業を支援し、社会的な意識を一層定着させることを目的として、内部管理・コンプライアンス・企業倫理等に関して優れた取り組みをおこなっている企業を選出、表彰するため2002年に創設されたものであります。企業の倫理・コンプライアンスに関するリーディングカンパニーであります中立的調査会社株式会社インテグレックスがおこなう「企業の誠実さ・透明性(倫理性・社会性)」調査回答企業を基礎としてKFI株式会社がスクリーニング、審議委員会の審議を経て決定されました。

なとりグループは、中期経営計画の成長戦略の一環として「透明性の高い企業体質」「自由闊達にして公正、節度のある企業体質」づくりを地道に進めております。

### ●ISO9001・ISO14001●

#### 主要3工場全てでISO9001の認証を取得

品質管理やクレームの絶滅には日頃より最も注力しております。ISO9001の認証取得を推進しており、当期は平成15年11月、子会社であるメイホク食品株式会社が認証を取得いたしました。この結果、埼玉工場、子会社である株式会社函館などを含めグループ内主要3工場全てでISO9001の認証を取得いたしました。引き続き子会社である株式会社全珍、ならびに本社での認証取得を進めてまいります。また既に主要3工場ではHACCP(危害分析重点管理点)基準適合の認証を取得しており、HACCP及びISO基準の統合的運用に、既に取り組んでおりますトレーサビリティも加えて、食品の安心・安全性の確保と品質管理の徹底に努めてまいります。

環境マネジメントシステムについては、平成12年6月に環境方針を策定、同年9月に本社にてISO14001の認証を取得しておりますが、当期は、埼玉工場が平成15年11月にISO14001の認証を取得いたしました。食品メーカーとしての事業活動を通じ「人と環境に優しい企業」を目指しており、並行して産業廃棄物の削減やCO2排出量の削減等環境保全活動を推進しております。また環境報告書をホームページ上で公開いたしました。



当社環境報告書



「誠実な企業賞大賞」表彰状

# 製品紹介

### 惣菜製品他

ナイルさんの野菜カレー 味付焼き貝 徳得亭 焼鮭ほくし

### 農産加工製品

梅スッキリ種ぬき ほし梅甘い 梅しっとり黒糖味  
干し赤ぶどう サラダ餅&揚げピー むき甘栗

### 酪農加工製品

スティックチーズ鱈 チーズ鱈ベスト3 スモークチーズ カマンベールチーズ鱈 三角チーズ鱈



### 畜肉加工製品

ジャッキーカルパス ビーフジャーキー ジャッキーBit スライスサラミ スティックビーフジャーキー おつまみベーコン おつまみフランクチリ味

### 水産加工製品

帆立貝柱燻製 ひとくちいか燻製 いわしせんべい 一夜干風焼あたりめ ソフトいか燻製  
カマンベールチーズ入かまぼこ チータラチップス のしたら 旨辛キムチ味 のしたら 焼肉味 茎わかめ

### ●新発売のQVシリーズ (Excellent Quality & Value)

あたりめ カマンベールチーズ入かまぼこ ソフトミニサラミ

「おいしさ」「安心」「健康」をコンセプトにプラスαの価値を与えた、今までにないこだわりのおつまみです。

**■株主優待のご案内**  
 毎期末3月31日現在、当社株式を100株以上保有の全ての株主の皆様に対して、上記5製品群にわたる商品から、よりすぐりの商品を贈呈いたします。  
 ●100株以上1,000株未満 2,000円相当 ●1,000株以上 3,000円相当

## 財務の状況

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部	当 期	前 期
	(平成16年3月31日現在)	(平成15年3月31日現在)
<b>流動資産</b>	<b>11,094</b>	<b>11,038</b>
現金・預金	1,277	1,328
受取手形・売掛金	4,475	4,511
たな卸資産	5,041	4,853
繰延税金資産	152	151
その他	155	200
貸倒引当金	△7	△6
<b>固定資産</b>	<b>13,896</b>	<b>14,080</b>
有形固定資産	12,050	12,534
無形固定資産	126	109
投資その他の資産	1,719	1,436
<b>資産合計</b>	<b>24,991</b>	<b>25,118</b>

## POINT 1 新株予約権付社債

アルパイン円貨建転換社債型新株予約権付社債を発行し15億円調達、具体的な資金需要が発生するまで、長期・短期借入金返済に充当いたしました。

## POINT 2 資本合計

アルパイン円貨建転換社債型新株予約権付社債の新株予約権行使により資本金・資本剰余金がそれぞれ10百万円増加、利益剰余金が4億5百万円増加した結果、株主資本比率は前期比2.3%アップの46.0%となりました。

## POINT 3 売上高

水産加工品 ・ソフトいか燻製、チーズかまぼこ、昆布、貝類、あたりめ 堅調  
 ・揚げ物等 減少  
 畜肉加工品 ・サラミ類、ジャーキー類とも 堅調  
 酪農加工品 ・チーズ類、チータラBit、ほぼ横ばい  
 農産加工品 ・豆、ナッツ類、ドライフルーツ 堅調  
 ・梅製品、栗製品 減少  
 惣菜製品ほか ・詰合わせ商品 堅調  
 ・株式会社なとりデリカ 洋風惣菜 減収(百貨店既存店減)  
 ・株式会社好好飲茶 中華冷凍飲茶 減収(SARS影響)

## 負債の部

負債の部	当 期	前 期
	(平成16年3月31日現在)	(平成15年3月31日現在)
<b>流動負債</b>	<b>9,061</b>	<b>11,094</b>
支払手形・買掛金	2,601	2,649
短期借入金	4,325	4,968
1年以内に返済予定の長期借入金	480	1,475
1年以内に償還予定の社債	100	—
未払法人税等	102	347
賞与引当金	282	336
その他	1,169	1,318
<b>固定負債</b>	<b>4,264</b>	<b>2,875</b>
社 債	—	100
新株予約権付社債	1,480	—
長期借入金	1,449	1,564
繰延税金負債	350	273
役員退職慰労引当金	930	888
その他	53	48
<b>負債合計</b>	<b>13,326</b>	<b>13,969</b>
少数株主持分	159	172

## 資本の部

資本の部	当 期	前 期
<b>資本合計</b>	<b>11,505</b>	<b>10,977</b>
資 本 金	1,235	1,225
資本剰余金	1,550	1,540
利益剰余金	8,649	8,244
その他有価証券評価差額金	70	△32
自 己 株 式	△1	△0
<b>負債・少数株主持分・資本合計</b>	<b>24,991</b>	<b>25,118</b>

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

	当 期	前 期
	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
<b>売 上 高</b>	<b>29,733</b>	<b>30,530</b>
売上原価	19,712	20,282
売上総利益	10,021	10,248
販売費及び一般管理費	8,986	8,640
営業利益	1,034	1,608
営業外収益	111	115
営業外費用	132	117
経常利益	1,013	1,606
特別利益	21	131
特別損失	5	271
税金等調整前当期純利益	1,029	1,467
法人税、住民税及び事業税	461	746
法人税等調整額	15	△50
少数株主利益	0	7
<b>当期純利益</b>	<b>551</b>	<b>763</b>

## 連結剰余金計算書

(単位:百万円)

	当 期	前 期
	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	1,540	1,540
資本剰余金増加高	10	—
資本剰余金減少高	—	—
資本剰余金期末残高	1,550	1,540
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	8,244	7,631
利益剰余金増加高	551	772
利益剰余金減少高	146	158
利益剰余金期末残高	8,649	8,244

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当 期	前 期
	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	997	169
投資活動によるキャッシュ・フロー	△613	△2,236
財務活動によるキャッシュ・フロー	△423	1,411
現金及び現金同等物の増減額	△40	△655
現金及び現金同等物期首残高	870	1,514
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	—	11
現金及び現金同等物期末残高	829	870

## POINT 4 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益 △437  
 運転資本関係 +416(14年3月末休日影響額+350含む)  
 未払消費税等増加 +342  
 法人税等支払額減少 +221

## POINT 5 投資活動によるキャッシュ・フロー

ラボラトリー建設資金残金 △377  
 社員寮建設資金残金 △57  
 焼却炉設置工事 △60

## POINT 6 財務活動によるキャッシュ・フロー

短期・長期借入金減少 △1,753  
 配当金支払 △136  
 アルパイン円貨建転換社債型新株予約権付社債発行による収入 +1,466

## 財務の状況

### 単体貸借対照表

(単位:百万円)

	当 期 (平成16年3月31日現在)	前 期 (平成15年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	10,126	10,113
現金・預金	796	851
受取手形・売掛金	4,208	4,258
たな卸資産	4,854	4,733
繰延税金資産	104	112
その他	168	161
貸倒引当金	△5	△4
固定資産	11,223	10,967
有形固定資産	8,906	9,159
無形固定資産	121	103
投資その他の資産	2,195	1,703
資産合計	21,349	21,080

### 負債の部

流動負債	7,665	9,431
支払手形・買掛金	2,461	2,576
短期借入金	3,395	3,878
1年以内に返済予定の長期借入金	325	1,249
1年以内に償還予定の社債	100	—
未払法人税等	82	316
賞与引当金	201	244
その他	1,099	1,166
固定負債	3,012	1,470
社債	—	100
新株予約権付社債	1,480	—
長期借入金	250	208
繰延税金負債	347	271
役員退職慰労引当金	924	880
その他	9	9
負債合計	10,677	10,901

### 資本の部

資本合計	10,672	10,178
資本金	1,235	1,225
資本剰余金	1,550	1,540
利益剰余金	7,817	7,446
その他有価証券評価差額金	70	△33
自己株式	△1	△0
負債・資本合計	21,349	21,080

### 単体損益計算書

(単位:百万円)

	当 期 平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	前 期 平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
売上高	27,649	28,304
売上原価	18,899	19,407
売上総利益	8,750	8,897
販売費及び一般管理費	7,870	7,504
営業利益	879	1,393
営業外収益	184	180
営業外費用	127	99
経常利益	937	1,473
特別利益	13	104
特別損失	4	214
税引前当期純利益	946	1,364
法人税、住民税及び事業税	416	681
法人税等調整額	13	△27
当期純利益	517	710
前期繰越利益	142	132
中間配当額	67	67
当期末処分利益	592	775

### 利益処分

(単位:円)

	当 期 平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	前 期 平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
当期末処分利益	592,028,676	775,205,047
任意積立金取崩額	—	—
固定資産圧縮積立金	11,561,418	8,647,291
固定資産圧縮特別勘定積立金	—	508,801,595
任意積立金取崩額計	11,561,418	517,448,886
合計	603,590,094	1,292,653,933
利益処分数額	—	—
株主配当金	67,812,400 (1株につき5円)	67,682,200 (1株につき5円)
取締役賞与金	7,700,000	11,000,000
固定資産圧縮積立金	—	521,303,954
固定資産特別償却準備金	20,708,153	—
別途積立金	350,000,000	550,000,000
(利益処分数額合計)	(446,220,553)	(1,149,986,154)
次期繰越利益	157,369,541	142,667,779

(注) 1.平成15年12月8日に、67,681,000円(1株につき5円)中間配当を実施しております。  
2.固定資産圧縮積立金、固定資産特別償却準備金は租税特別措置法の規定に基づくものであり、取崩の金額は税効果会計適用後の金額を計上しております。  
3.株主配当金は、自己株式1,675株を除いて計算しております。

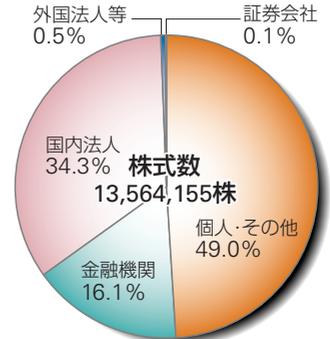
## 株式の状況

(平成16年3月31日現在)

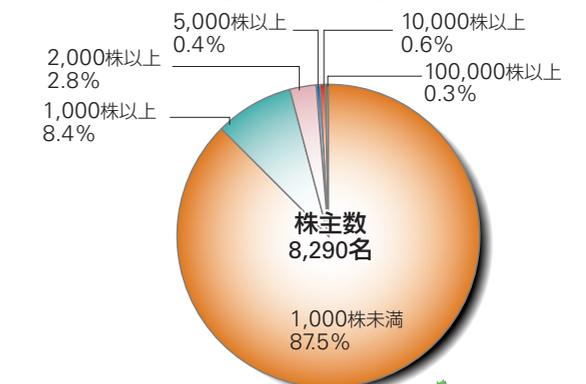
- 会社が発行する株式の総数 40,000,000株
- 発行済株式の総数 13,564,155株
- 当期末株主数 8,290名
- 大株主(上位10名)

株 主 名	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社名旺エステート	2,547,000	18.79
名 取 小 一	1,008,180	7.44
有限会社メイオウ	837,336	6.18
名 取 三 郎	676,308	4.99
横 山 よ し 子	672,684	4.96
名 取 浪 男	431,520	3.18
な と り 社 員 持 株 会	346,660	2.56
有限会社フジミ屋興産	313,796	2.31
株式会社東京三菱銀行	264,000	1.95
松 浦 み ど り	259,572	1.91

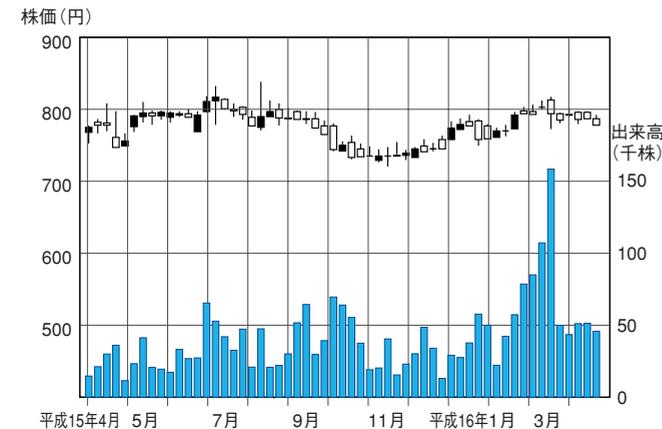
- 所有者別分布(株式数比率)



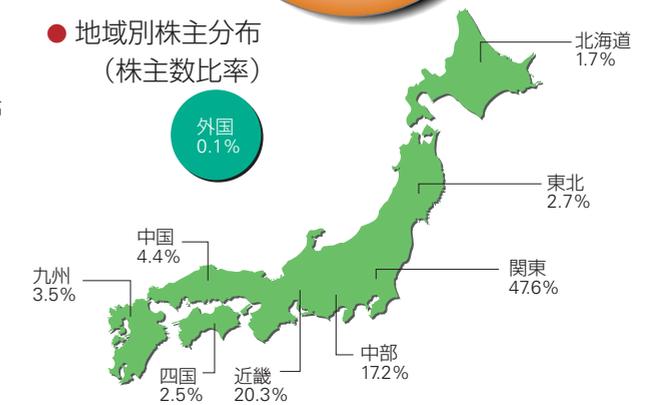
- 所有株式数別分布(株主数比率)



- 株価チャート(平成15年4月1日~平成16年3月末日)



- 地域別株主分布(株主数比率)



## 会社の概要 (平成16年3月31日現在)

会社名 株式会社 なとり  
 本社 東京都北区王子5丁目5番1号  
 設立 昭和23年6月  
 資本金 1,235,125,250円  
 従業員数 598名(男子388名、女子210名)  
 主要取引銀行 東京三菱銀行、りそな銀行、商工組合中央金庫、  
 農林中央金庫、三井住友銀行、みずほ銀行

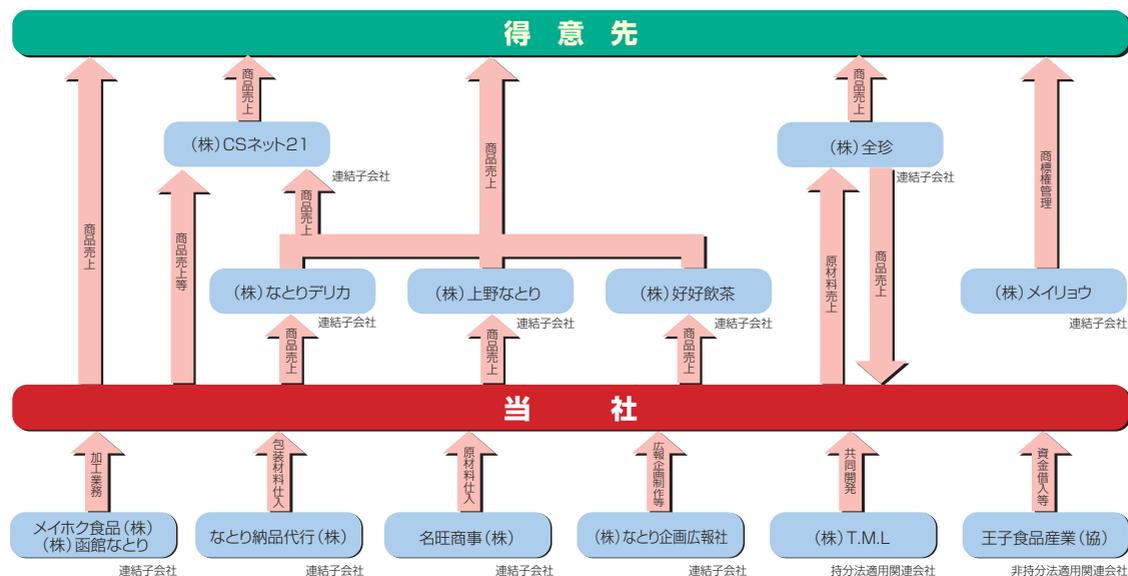
役員 (平成16年6月29日現在)

代表取締役社長兼CEO・COO	名取 小一郎
取締役副社長兼COO	名取 三郎
取締役専務執行役員	東 正光
取締役常務執行役員	小嶋 利光
取締役常務執行役員	小嶋 雄一郎
取締役上席執行役員	北見 弘之
取締役(社外)	岡崎 正憲
取締役(社外)	大藤 裕康
常勤監査役	打越 常夫
監査役(社外)	林 徹一
監査役(社外)	割出 雄一
監査役(社外)	三井 浩裕
上席執行役員	小林 眞臣
上席執行役員	出島 信
上席執行役員	井筒 雅順
上席執行役員	石上 雅英
執行役員	相澤 幸佳
執行役員	稲川 邦政
執行役員	永井 佳裕
執行役員	水野 正
執行役員	山形 正

## 企業集団の状況

当社の企業集団は、王子食品産業(協)を除く子会社11社、関連会社1社を連結対象会社として構成され、水産加工品、畜肉加工品、酪農加工品、農産加工品、惣菜品ほか、おつまみ食料品全般にわたる製造販売を主な内容として事業活動を展開しております。

事業の系統図は次のとおりであります。なお、(株)T.M.Lは早稲田大学社会システム工学研究所との産学協同事業として平成15年5月8日に設立いたしました。



## 生産・営業・物流拠点 (平成16年3月31日現在)

メイホク食品



全珍



埼玉ミート工場・埼玉チーズ工場



埼玉ナッツ工場



- 営業拠点**  
● 営業所全国39カ所
- 連結子会社**  
● 国内11社
- 物流拠点**
  - 首都圏配送センター  
埼玉県加須市大桑2丁目23番1
  - 北日本配送センター  
北海道札幌市東区19条東22丁目1番4号
  - 東北配送センター  
宮城県仙台市若林区卸町東2丁目2番7号
  - 中部日本配送センター  
愛知県名古屋市中川区柳森町803
  - 関西配送センター  
大阪府東大阪市本庄中1番地16
  - 九州配送センター  
福岡県大野城市御笠川4丁目7番16号

- 生産拠点**
  - (株)なとり埼玉ミート工場・埼玉チーズ工場  
埼玉県久喜市清久町1番6号
  - (株)なとり埼玉ナッツ工場  
埼玉県久喜市清久町1番7号
  - メイホク食品(株)  
北海道亀田郡大野町字清水川1220番地1
  - (株)函館なとり  
北海道亀田郡大野町字清水川142番地12
  - (株)全珍  
広島県呉市広末広1丁目3番28号

## 株主メモ

決 算 期	毎年3月31日
定 時 株 主 総 会	毎年6月
配 当 金	3月31日の最終の株主名簿(実質株主名簿を含む)に記載または記録された株主(実質株主を含む)または登録質権者にお支払いいたします。
中 間 配 当 金	中間配当をおこなう場合は、9月30日の最終の株主名簿(実質株主名簿を含む)に記載または記録された株主(実質株主を含む)または登録質権者にお支払いいたします。
基 準 日	定時株主総会については3月31日その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
公 告 掲 載 新 聞	日本経済新聞
1 単 元 の 株 式 数	100株
株 式 名 義 書 換 代 理 人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 所 (お 問 い 合 せ 先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 東京03(3323)7111
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社本店および全国各支店

当社は、貸借対照表(および損益計算書)を決算公告に代えて、ホームページに掲載いたしております。

ホームページアドレスは次のとおりです。

<http://www.natori.co.jp/kessan/index.html>



〒114-8611 東京都北区王子5丁目5番1号 TEL03(5390)8111



この事業報告書は、エコマーク認定の古紙配合率100%の再生紙を使用し、アロマフリータイプ大豆油インキで印刷されています。